



皆さんの家庭から排出されたごみは、ごみステーションから収集された後、施設に運ばれ処理されますが、その過程には危険がたくさん潜んでいます。きちんと分別することで防げることばかりですので、今一度、分別方法を見直しましょう。

どんな事故が多いの？

事故の中で一番多いのは「火災」です。

発火の危険がある物や燃えやすい物が混入することで、事故発生のリスクが高くなります。



【車両火災の写真】



【混入していたスプレー缶】



岩見沢市でも、平成30年9月にごみを収集中のパッカー車が発火する事故がありました。

燃やせないごみにスプレー缶が混入していたことが原因と考えられます。



特にどんな物が危ないの？

■ライター、スプレー缶、カセットボンベ → 「危険ごみ」として排出



※中身は使い切って！

■電池類 「乾電池」 → 「危険ごみ」または「拠点回収」



「リチウム電池(型番BR・CR)」 → テープを巻いて絶縁し「燃やせないごみ」



「充電電池(バッテリー)」 → 「クリーンエコ」に持ち込み



※リチウムイオン電池など

小型家電を出す時も
電池・充電電池を
抜いてから！

～電池はこんなところに
使われています～



電話機



掃除機



etc...

なんで危ないの？

① 収集 のとき



ごみを集めるときは、**パッカー車（塵芥車）**という車両を使います。車両に投入したごみを、荷箱へ押し込み圧縮する装置がついた車です。

スプレー缶や**充電電池**などが**混入**すると、**圧縮するための圧力がかかった時に破裂・発火し、火災**につながります。

そのため、「危険ごみ」は**平ボディトラック**と呼ばれる車両を使い、圧縮しないで回収しています。

② 処理 のとき



施設ではどんな処理をしているのかな？

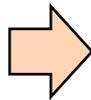


燃やせるごみ の流れ

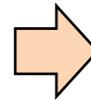
燃やせないごみ の流れ



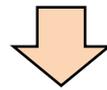
ごみを施設に搬入する



ピットにためる



焼却炉で燃やす



破砕機で細かくする



選別機で資源を取り出す



残ったものを埋め立てる

燃やせるごみ は、安定して焼却できるよう、ごみを均一にするため、一度ピットに貯留させてから攪拌します。ピットで発火すると、他のごみに燃え移り「大事故」につながります。

燃やせないごみ は、資源物を取り出しやすくするために細かく破砕します。強い衝撃を加えるため、混入があると発火の危険が高い工程です。

いわみざわ環境クリーンプラザ いわ☆ぴかでも、混入が原因の火災が頻発しています。

(週1~2回程度)

その度に自動消火装置で鎮火していますが、**いつ施設が故障してもおかしくありません。**



事故が起きると！

車両や施設の損傷・修理、作業員の負傷など、**甚大な被害**が出ます。

また、事故による作業の中断で**ごみを収集できなくなる**こともあります。